

◆研修会参加記◆

第13回日赤図書室協議会研修会に参加して

的 場 幸 子

■はじめに

今回で13回を向かえる研修会は7月28日(金)、東京女子医科大学図書館見学後「からだの情報館」を見学、29日(土)は日本赤十字本社で図書室の日常業務に関する基礎講座・事例報告・又一番関心の高い電子ジャーナルについての講演がありました。42施設43名の参加でした。

話題の「からだ情報館」と電子ジャーナルに関しての研修会報告を中心に参加報告とさせていただきます。

■東京女子医科大学「からだの情報館」を見学して

2003年6月に100周年を記念して資金を集めて海外を参考に開館したとのお話でした。総合外来センターに位置する150平方メートルのガラス張りの部屋でポスターや観葉植物などでフロアーからは適度に隠された居心地の良い空間として設計されており、本棚は3段で低めの木製を使用し車椅子の患者さんにも利用していただけるよう優しい配慮がなされておりました。

医学部図書館からの専任司書が常駐し、元看護師長さん3名がボランティアで交代で毎日2名体制で勤務しています。一日の利用者は170名から200名に上るため、スタッフの

人手不足とのお話でした。

利用時間：平日10時～16時 土曜日10時～14時

資料：医学書 600冊(日本臨床別冊など)
医学雑誌 10誌(NHK きょうの健康)
ビデオ 185本(ガンマーナイフ)
パンフレット 200種・・・収集方法がユニークでした。赤丸は皮膚科といった色別分類がされており、自由に持ち帰ることが出来るのが大変好評とのことでした。

設備：ビデオ用テレビ 2台

コピー機 2台(1枚=10円)

パソコン 4台(お気に入りのページ)

ソファはエメラルドグリーン「癒しの色」
「知識の共有」との新しい患者さんのための図書館の必要性を強く感じました。



MATOBA Sachiko

伊達赤十字病院 図書室

d-tosho@date-rch.jp



からだ情報館 パンフレット

■講演「電子ジャーナルの基礎と具体的導入に向けて」

2日目は総会の後、講演会から始まりました。今、関心ごとは何と言っても電子ジャーナルだと思います。

電子ジャーナルでのサービスの形態は、出版社によるものと統合サービスによるものがあるそうです。利点は原田さんの講演で詳しく説明がありましたが、一番に保存スペース又製本費用の削減と受け入れ配架の省力化、関連文献へのナビゲーション又いつでも情報源にアクセス可能で、冊子が到着するより速く、Full text を入手することができることがあげられました。

欠点は、契約形態が不明であることと、購読中止後のバックファイルへのアクセスが不透明ということと価格の面で10%から20%割高であることです。

保証の面と金額の面で、私は図書という形にこだわっているところがあります。今まで

蓄積してきたデータは、紙の形の方を信用しているところがあります。

情報が、電子化されたものに信用がおけないという側面から抜け切れません。図書館の姿は、これからまださらに新しい形で進むと思われまじ、電子ジャーナルの流れは止まらないと思います。

FAXがはじめてできた当初、FAXを送って届いているか？と電話で確認を取ったころの記憶があらうと思います。今、電子ジャーナルが丁度その時期にあるのかもしれない。

紀伊国屋書店提供の無料で利用できる電子ジャーナル一覧を紹介します。

○PubMed Central (NLMのポータルサイト：一部6~12ヶ月の収録猶予あり)

<http://www.pubmedcentral.nih.gov/>

○BioMed Central

<http://www.biomedcentral.com/>

○PublicLibrary of Science:Medicine

<http://medicine.plosjournals.org/>

○Free Medical Journals

<http://www.freemedicaljournals.com/>

英語のほか、フランス語、ドイツ語、スペイン語などの無料電子ジャーナルも含むポータルサイト

○HighWire Press

<http://highwire.stanford.edu/lists/freeart.dtl>

無料公開～一定期間後(早いのは3カ月)
無料公開タイトル一覧